

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103697		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	マイハウス すが(ユニツ名 マイハウス すが)		
所在地	岐阜市須賀3丁目17-5		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	令和7年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103697-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気が悪くなければ散歩に出掛け気分転換や筋力・手威力の維持向上を図っている。以前のようにお花見・喫茶店に出かける機会をもうけ楽しく過ごしていただけている。又家族との外出、面会の時間をやり家族と過ごしていただいている。出来るお手伝いをさせていただくことで役割を持つ喜びや生活に張りを持てるよう支援している。職員と利用者さんが3世代同居の大家族のように賑やかで打ち解け会え、安心して生活して頂けるような雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体機能に変化があっても、その中でできることを自分で行うことが、理念に謳う「できる喜び」であり、尊厳の保持になると考えている。できることへの支援を惜まず、利用者が地域と交流して生き生きと暮らしていけることを目指している。ミーティングには、法人代表をはじめ全職員が参加しており、理念や利用者本位の介護方針の統一を図っている。

日課の散歩やゲートボールが契機となり、地域との関わりが深まっている。ホーム行事や避難訓練に地域住民が参加し、運営推進会議にも地域から多彩なメンバーが集まる。世代交代が進む地域にあって、若い世代に対しても、将来直面するであろう「高齢、介護、認知症」等に関する情報を発信している。地域に根付いたホームであり、行政と地域を結ぶ橋渡し役を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃のケアの実践の中で同じ目線に立ちその人がどのような支援を必要とするのかを月に一度のミーティングで一人一人の今の状況に合った支援の方法を話し合っている	身体機能の低下により、利用者が「自分でできる」ことが少なくなっている中、可能な限り「自分でできること」を促している。利用者の尊厳の尊重や利用者本位という介護の理念を会議で再確認し、共有して実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回してもらい地域の行事を把握している。ホームの行事に参加していただき利用者との触れ合いをしている	地域のサロンに毎月参加し、顔馴染みの関係ができつつある。地域行事が徐々に再開され、祭りの子どもみこしが訪れるのを利用者が楽しみにしている。ホーム行事を地域にも案内し、クリスマス会や避難訓練等に住民の参加がある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い、利用者、家族、行政、地域の役員の方に参加していただき、事業所の状況や活動内容を報告し、参加者の方により良いサービスのための助言を頂きサービスの向上に生かしている	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や民生委員、自治会長、福祉委員等、地域からの参加が多数ある。行事を絡めて開催し、ホームや介護、認知症に対しての理解の促進や啓発のための意見交換の場となっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村担当者と連携を密にしており協力関係を築いている	生活保護受給者の利用が複数名ある。市の生活福祉課担当者や成年後見人等の面会が2～3ヶ月に1度あり、情報を交換している。介護保険の事務や処遇等の相談、手続きは、電話やメールの他、直接訪問して連携を図っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠やベッド柵の使用等安全面で必要な時は職員間で話し合いをし、家族の承諾を得ることがある。拘束時は記録を残し、月に一度のミーティングで話し合いを行い、必要時と3ヶ月に一度拘束委員会で拘束について会議を行っている	虐待防止と共に毎月のミーティング時に身体拘束について話し合いを行い、3ヶ月毎に委員会を別途設けている。身体拘束をしないケアに努め、利用者の権利擁護についての意識を常に持って接するよう、研修や指導を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや職員間でストレスになる事柄について話すことにより、自分の言葉を振り返りストレスを溜めずに適切なケアが継続できるよう努めている。体にあざや傷を見つけた時は職員間で共有し原因について確認・把握、家族に伝えている	地域包括支援センターからの呼びかけにより、虐待防止についての研修を全職員が受講した。皮膚の脆弱等、高齢者の特性による変化に気づいた時は即時報告・検討し、ケアの方法変更など、必要な対応を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況をよく理解し必要と思われる家族には青年後見人制度の説明をし、活用できるよう支援している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には代表者が時間をかけて十分な説明をしている。特に終末期のケアについては十分に説明し納得してもらっている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的にまた家族にはケアプランの説明時や面会時に意見・要望を聴くことを心掛けている。意見箱も玄関に設置し、出された意見・要望はミーティング時に全体で話し合っている	面会や外出は制限を設けず、ホームイベントを案内して来所を促している。SNSやメールなど、家族の希望に応じたコミュニケーションツールを活用することで、写真や動画によるタイムリーな情報発信や双方向のやり取りが容易となった。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員との関係づくりを心掛け、意見や要望を話しやすい雰囲気を作り。出された提案はミーティング時に全体で話し合っている	それぞれのユニットで毎月開催されるミーティングには、法人代表も出席している。ホーム内の風通しは良好であり、管理者は日常業務の中でも職員意見を聞いている。法人代表にも直接話ができる関係が構築されている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	毎月提出された勤務表を確認し勤務状況を把握している。個々の職員の働き方を理解し希望に沿った勤務環境を提供している。子育て世代や在宅介護を行っている職員には急な欠勤にも柔軟な対応を行っている	感染症の発生時には、管理者が勤務シフトを調整し、日常支援と共に収束に向けて団結して対応にあたった。子育て中の職員は、学校行事等に合わせて休みが確保され、急な遅刻・早退・休暇に対しても柔軟に対応している。ワーク・ライフ・バランスにも配慮している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し研修を受ける機会を設けている。また資格の受験条件がそろった職員には積極的に受験することを推奨しシフトの調整をして支援している。月一の会議時、研修テーマに沿って全体で勉強会を行っている	資格取得支援制度、取得後の資格手当の仕組みがあり、ほぼ全ての職員が介護福祉士資格を取得している。必要な研修への参加を可能とするため、職員の協力を得て勤務シフトを調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会主催の研修や講演会・勉強会の開催の案内が届いたら、必要と思われるものには勤務の調整が出来れば出席し、サービスの質の向上に繋げている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の機会を多く持ち人生観や考え方を共有し時には意見を交え大家族のようである。同じ目線に立ち考えてみるようにしている。意思表示がしやすい声掛けや雰囲気づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時等対一人でゆっくりと話せるときに思いや要望を伝えてもらえるようにしている。ケアプランのアセスメントで本人の思いを聞き取ったり、何気ない時に話したことを職員全体で共有し把握に努めている	利用者ごとに担当職員を決め、日常支援の関りの中で、利用者から直接話を聞いている。意思の表出が困難な利用者にも、言葉にできない思いや希望を関りの中で汲み取っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で本人の思いを聴きだしたり、必要と思われる課題を見つけミーティング時に職員全体で検討し変化を見逃さず現状に沿ったケアプランに繋げている	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行い、担当職員と計画作成担当者がモニタリングしている。サービス担当者会議には家族や後見人も参加し、さらに、本人本位の介護計画とするために多職種の意見を求めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、排泄、体重等記録し、また口頭での申し送りを行い職員全員が状況を把握し安全や健康への配慮が出来るようにしている。プランの見直し時にはアセスメントを取り本人の希望を聞き取っている	個別の「生活記録」を、1日1シートで勤務時間帯で色分けして記載している。「生活記録」に介護計画が記載されており、実施内容は介護計画の番号を記載している。ホーム全体の実施事項は、「業務日誌」に記録している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からの要望や状態から必要なサービスをその時に取り入れながら行っている。また家族の協力も得てかわりを途切れさせることの無い関係づくりをしている	季節の行事や食事は、利用者の生活の中の大きな楽しみであると考えている。コロナ禍以前のバス旅行の再開を検討している。衣類や日用品の補充を家族から依頼され、買い物の代行を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席している役員(民生委員・福祉委員・自治会役員)より地域資源の情報を得、利用者の状態に応じて参加している。日頃より地域の中に出ていくことを心掛けている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、内科医と歯科医の訪問診療が行われている。変化が見られた場合は主治医と連絡を取り指示を仰いだり往診に来ていただいている。本人・家族の希望等や専門医の診察が必要と思われるときは通院して頂くこともある	協力医の訪問診療が月に2回あり、全ての利用者が利用している。訪問歯科診療は歯根がある全ての利用者が入居時に診察を受け、その後は必要に応じて治療を受ける体制を取っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を病院に提供し、家族にも入院に必要なものを用意し相談に乗っている。入院中は病院からの状況説明に対し適切に対応し、退院時はカンファレンスに出席し関係づくりに努めている	入院に際しては、病院にホームでの様子を情報提供している。入院中は、法人代表が病院のケースワーカーと連携し、早期退院に向けて話し合いを行っている。同時に家族とも情報を共有し、意向に沿った退院となるよう努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したり医療が必用になった場合のことをしっかり説明し、納得してもらったうえで、その段階になった場合家族・主治医・関係機関と相談し、親身に相談に乗り支援している	看取りを行わないことを方針としており、入居時に家族に説明して同意を得ている。「要介護3」を目途に、家族に特別養護老人ホームの利用申込みを勧めており、重度化する利用者にも対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時など職員が手薄になる時間帯の緊急マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また色々なケースを想定した勉強会や対応の仕方をミーティング時に行っている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、うち1回は夜間想定でおこなっている。水害等の避難訓練は外に出るのは危険なため垂直訓練を実施している。地域の方には運営推進会議時に事情を説明し協力を依頼している。月1回の会議内の勉強会でも避難場所や手順の確認をしている	ハザードマップ上では浸水リスクが想定され、運営推進会議では地域の情報や防災について話し合いを行っている。火災を想定したホームの避難訓練には地域住民も参加し、消火訓練や炊き出しを一緒に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や思考の傾向を掴みその人が大切に思っていることを尊重できるように心掛けている。介助時なれ合いによりプライバシーの侵害とならないよう常に頭において介助を行っている。言葉の虐待にならないようにスタッフ同士注意しあっている	何気なく使っている言葉がスピーチロックに該当したり、長い関わりの中で馴れ馴れしさが生じたりと、時として配慮を欠く場面がある。そのような時には職員同士で注意しあっており、またミーティングでは法人代表からの注意喚起もある。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の願いや希望を引き出しやすいような声かけを何気ない日常の一場面で行ったり上手く表現できない場合は選択型の質問で自己決定の支援を行っている			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事を利用者さんに選択して頂いたり、気分により居室で休んでいただく時間を設けたり、レクやお手伝い等も本人の意思を尊重し無理強いをしない			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを記録することで食材に偏りがないようにしている。食材切りや食器拭き等のお手伝いをして頂くことで参加意識を持って頂き、買い物に出かけスーパーで食材を選んで食べたいものを購入している	その時にある食材から献立を考え、3食手作りの食事を提供している。手伝いができる利用者とは、下ごしらえや片付けを一緒に行っている。恒例の花見には花見弁当を作り、夏にはスイカ割りや流しそうめん等、季節感のある食事を楽しんでいる。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態により刻み食・お粥等提供することにより食事量が減らないよう努力している。食事量や水分量を記録し摂取量の把握をしている。と糖尿病患者には食事量の調整や糖分・塩分に配慮している。体重減少があるときは栄養補助食品をていこうしている			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の目の届くところで口腔ケアをして頂き迷っている時や出来ない時は声掛けや介助を行っている。夕食後は義歯の消毒を行っている。月に2回歯科医による往診を受け汚れのチェックを受けている	起床時と毎食後に、口腔ケアを促している。介助が必要な利用者は、磨き残しがないよう、歯科医や歯科衛生士の指導を受けて介助している。月2回の歯科医の訪問時には、口腔ケアの指導や助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現状の排泄パターンに合わせ使用する組み合わせを変えている。声掛けや時間に合わせ誘導を行いトイレでの排泄が出来るよう支援している。行動観察で排泄の合図を見逃さないようにしている。出来るよう支援している。また体調に応じての対応も心掛けている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には一日おきの入浴をして頂いているが体調や外出等に合わせ入浴日をずらしているが、希望時間までは考慮できていない。個々の好みのお湯加減を把握し入浴の順番を考えている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう出来るだけ日中の活動を促している。寝具の洗濯や天日干し等清潔保持を心掛けている。冬場は湯たんぽを使用し心地よく入眠できるよう支援している。(希望者には)		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋ファイルをいつも職員が確認できるようにしている。服薬時は手渡し等の支援をしている。薬について安心して服用できるような説明を行っている。体調変化があった場合は主治医に連絡を取り投薬や支援を仰いでいる	担当者を決め、1週間分の処方薬のセットを行い、1日分ごとの処方薬を準備している。与薬担当者(食事の係)が名前、日付を確認し、確実に服薬できたことを確認している。薬の内容(効能、副作用等)は、薬剤情報により把握している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって日々生活して頂き家庭で行っていた趣味が継続できるよう家庭の協力も得て楽しみや生きがいを継続していけるよう支援している。ホームで飼っている猫と遊び楽しい時間を過ごし癒していただいている	利用者の得意なことやできることが継続するよう、強いることなく無理のない範囲で促している。カラオケ好きの利用者はマイクを離さず、裁縫が得意な利用者は雑巾作りに余念がない。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が悪くなければほぼ毎日独歩、シルバーカー、車いす一人ひとりその日の体調等に合わせた方法で散歩に出掛けたり、買い物に同行していただき気分転換やストレス発散を図っているが、希望を叶えるのが難しい場合家族に希望を伝え協力して頂いている	散歩は日常的に行われており、身体機能に応じて車いすを使ったり、それを押したりして外気に触れる機会としている。花見や喫茶店への外出もある。玄関横には小さな畑があり、野菜を作って食卓に彩りを添えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行っていないが必要なものは職員が好みを聞き購入している。また本人と一緒に買い物に出かけ自身にて品物を選んでいただいている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合は電話の取次ぎを行っている。手紙は希望者に年賀状を書いていただく程度であるが、希望があればいつでも書いていただけるように支援する		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	何時も清潔に気を配り汚れに気づいたらすぐに掃除をするようにしている。季節感のある飾りを利用者と作成し展示したり、テーブルに花を絶えず飾って安らぎを感じて頂ける様にしている。室温や湿度を適切に保ったり空気清浄機で快適に過ごせるようにしている	居間はほとんど共有空間で過ごす利用者が多く、食堂とリビングを分け、一日の生活にメリハリをつけている。職員と利用者が一緒に行う手作りカレンダー作りや、書初め、脳トレ、塗り絵などもリビングで行われる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやキッチンの座る場所を車椅子使用者に配慮した位置にしている。気の合った人同士やトラブルになりやすい利用者間の一にも注意しているが基本的にはソファでは固定した位置は決めずに座って頂いている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や置物等自宅より気に入った物を持ってきて頂き好きなように飾っていただいている。毎月作成したカレンダーやイベントの写真の展示スペースを作り飾っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段には手すりを取り付け自立歩行を支援し、居室のドアにネームプレートをかけ自分の居室を解りやすくしている。トイレや洗面所等にも貼り紙をし場所を解りやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2170103697		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	マイハウス すが(ユニツ名 マイハウス うずら)		
所在地	岐阜市須賀3丁目17-5		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	令和7年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103697-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を発症しているとはいえ個々の持っている残存能力が発揮できるよう支援し、毎日の生活の中で役割を持って生き活きと生活して頂くことを目指している。またご家族には面会時に日頃の様子を伝え隠し事なく報告することで信頼関係を築いている。天気の良い日は近くの公園や神社に散歩に出掛け地域の方との交流もし、外の刺激を受けて頂きながら筋力低下の防止に努めている。ホーム内で季節ごとの行事(誕生会・流しそうめん・スイカ割・花火大会・クリスマス会・喫茶)などイベントも行っている。コロナの対応も変わり現在は面会や外出も行っていただき家族との繋がりも支援している。最近の入所時より重度の利用者さんも多く、個々の状態に合わせた介護の対応が出来るよう、職員の教育にも力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	{できる}ことへの支援を惜まず、どんどん地域の出る機会を持ち活き活きとした生活をして頂けるよう理念に基づいたケアを意識している。また近年は入所時より重度の利用者様が多く、個々に合った支援を心掛けている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回してもらい地域の行事を把握している。ホームの行事に参加していただき利用者との触れ合いをしている。また老人会に加入しサロンに毎月参加している			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い、利用者、家族、行政、地域の役員の方に参加していただき、事業所の状況や活動内容を報告し、参加者の方により良いサービスのための助言を頂きサービスの向上に生かしている			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村担当者と連携を密にしており協力関係を築いている			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアを理解しているが、ホーム前には交通量の多い道路があり、玄関の施錠を行っている。拘束時は記録を残し、月に一度のミーティングで話し合いを行い、必要時と3ヶ月に一度拘束委員会で拘束について会議を行っている			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括による虐待にならないための研修を全職員が受けたり、岐阜県介護研修センターによるオンライン研修、虐待・身体拘束対応研修を受け会議の場で職員に伝えている。また入浴時などに体の状態を確認してあざ等が出来ていないかを確認し、原因を確認、把握、家族に伝えている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況をよく理解し必要と思われる家族には青年後見人制度の説明をし、活用できるよう支援している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には代表者が時間をかけて十分な説明をしている。特に終末期のケアについては十分に説明し納得してもらっている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的にまた家族にはケアプランの説明時や面会時に意見・要望を聴くことを心掛けている。意見箱も玄関に設置し、出された意見・要望はミーティング時に全体で話し合っている		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員との関係づくりを心掛け、意見や要望を話しやすい雰囲気を作り、出された提案はミーティング時に全体で話し合っている		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	毎月提出された勤務表を確認し勤務状況を把握している。個々の職員の働き方を理解し希望に沿った勤務環境を提供している。子育て世代や在宅介護を行っている職員には急な欠勤にも柔軟な対応を行っている		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し研修を受ける機会を設けている。また資格の受験条件がそろった職員には積極的に受験することを推奨しシフトの調整をして支援している。月一の会議時、研修テーマに沿って全体で勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会主催の研修や講演会・勉強会の開催の案内が届いたら、必要と思われるものには勤務の調整が出来れば出席し、サービスの質の向上に繋げている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な立場であることを意識し本人の意思を尊重し日々の生活の中で共に作業したり関わる機会を多く持つ中で支え合う関係づくりをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は出来るかぎり利用者と共に生活し、何気ない会話の中で思いや希望を把握している。困難な場合は行動や様子から把握に努めている。ケアプランのアセスメントで本人の思いを聞き取ったり、何気ない時に話したことを職員全体で共有し把握に努めている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくどの職員も日頃の会話の中で本人の思いや意向を把握しミーティング時に共有し介護計画に反映している。かぞくとの綿男児日頃の発言などから本人の思いを伝え希望が叶うようにしている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランのニーズを確認しながらほんにんの言葉、エピソードを記入している。ケアプランの見直しをの前にはアセスメントで本人の思いを聞き取りケア会議を行い職員間で共有している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からの要望や状態から必要なサービスをその時に取り入れながら行っている。また家族の協力を得てかわりを途切れさせることの無い関係づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席している役員（民生委員・福祉委員・自治会役員）より地域資源の情報を得、利用者の状態に応じて参加している。日頃より地域の中に出ていくことを心掛けている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族で相談しかかりつけ医を決めている。また医療機関にかかるときは本人家族の要望を聴きかかりつけ医に紹介状を書いてもらい同行して状態の説明を行っている。最近はりモートでの診療も取り入れ何か問題があった時には直ぐに主治医と連絡を取り対応している		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を病院に提供し、家族にも入院に必要なものを用意相談に乗っている。入院中は病院からの状況説明に対し適切に対応し、退院時はカンファレンスに出席し関係づくりに務めている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したり医療が必用になった場合のことをしっかり説明し、納得してもらったうえで、その段階になった場合家族・主治医・関係機関と相談し、親身に相談に乗り支援している		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時など職員が手薄になる時間帯の緊急マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また色々なケースを想定した勉強会や対応の仕方をミーティング時に行っている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、うち1回は夜間想定でおこなっている。水害等の避難訓練は外に出るのは危険なため垂直訓練を実施している。地域の方には運営推進会議時に事情を説明し協力を依頼している。BCPを作成し緊急時の対応も行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応を全職員が心掛け、会議の場でも確認している。また親しみの中にも尊敬の気持ちを持って接することを心掛けている。また他利用者の前で個々のプライバシーの話をしないようにしている		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の色々な場面で意思決定の出来る働きかけをしている。日頃より自分の思いや希望が話しやすい関係つくりにも努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な流れの中でその人のペースを大切にし本人に意思決定してもらう機会を多くできる努力をしている。外出や買い物も希望を取り入れている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを記録することで食材に偏りがないようにしている。食材切りや食器拭き等のお手伝いをして頂くことで参加意識を持って頂き、買い物に出かけスーパーで食材を選んで食べたいものを購入している		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れたメニューづくりを心掛け個々の状態に応じてお粥や刻み食、とろみを付け提供している。食事量、水分量を記録し栄養を確保できるよう努めている。夜間はペットボトルにお茶を用意している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の力に応じた口腔ケアを行い出来ないところは職員が介助「衛星」に努めている。義歯は毎日洗浄液に入れている。月に2回訪問歯科診療による治療、口腔ケアを受け家族にも報告し必要があれば歯科受診して頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを記録等により把握し、また利用者の様子から誘導を行い出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。布パンツ利用の利用者もみえる		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきに着かえの服を職員と一緒に選んでもらい入浴して頂いている。時間の希望までは難しいが一人ひとりゆっくり入り昔話をしたり唄ったりして楽しい時間になるよう支援している		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をしていただき20時ころまではゆっくり過ごしてもらっている。安眠を促すようホットミルクも提供している。眠剤が必要な利用者さんは服用されている。お昼寝など希望に応じて頂いている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体状況表を毎月見直し現在服用している薬を確認している。薬の目的や効果、副作用に関しても把握に努めている。処方の変化があった場合は変化を見逃さず記録・報告を行っている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きなことが集中して出来る時間と場所を提供し生き活きた生活が送れるよう家族にも協力してもらい支援している。得意分野を生かし食事作り・掃除・畑仕事などに参加して頂いている		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が悪くなければほぼ毎日散歩、シルバーカー、車いす一人ひとりその日の体調等に合わせた方法で散歩に出掛けたり、買い物に同行していただき気分転換やストレス発散を図っているが、希望を叶えるのが難しい場合家族に希望を伝え協力して頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行っていないが必要なものは職員が好みを聞き購入している。また本人と一緒に買い物に出かけ自身にて品物を選んでいただいている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合は電話の取次ぎを行っている。手紙は希望者に年賀状を書いていただく程度であるが、希望があればいつでも書いていただけるように支援する。遠くに住む姪御さんから定期的にハガキが届いたりする		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり日本古来の行事を大切にしたり飾り付けを心掛けている。壁には「利用者の作品や写真を掲示している。また毎日決められた掃除や床の拭き掃除を行い清潔を心掛けている。加湿器・空気清浄機を使用し衛生面でも気をつけている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中でもソファの位置は決めずその時々自由に座って頂いている。玄関スペースに椅子を置きいつでも過ごせるようになっている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた馴染みのものを持ってきて頂き、入所後も一緒に居室づくりを楽しむようにしている。掃除や片付けも一緒に定期的に行っている。ロッキングチェアなど置いてみえる方もいる		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ一般の家のような雰囲気の中で環境整備することによって自立した生活が送れるよう支援している。居室、トイレのドアに名前をつけ解りやすくしている		